

科目名称：	デジタルコミュニケーション論		
担当者名：	廣瀬 元		
区分	授業形態	単位数	
専門教育科目	講義	2	
授業の目的・テーマ			
デジタルコミュニケーションは、情報やメッセージをデジタル技術を通じて送受信することを指し、これは電子メールやテキストメッセージング、ソーシャルメディア、ビデオ会議などのインターネットや電子機器を利用したコミュニケーション手段、またデジタルメディアを利用したプレゼンテーションや動画配信なども含む。本科目では、その仕組みや効果的なデジタルコミュニケーション手段について学ぶ。			
授業の達成目標・到達目標			
人間のコミュニケーション手段がメディアの発達とともにどのような変化を遂げたか、その歴史や仕組みについて理解し、それを踏まえた上でどのように情報を送受信、編集処理、表現することが効果的か考察・実践できるようになる。またそのために、日進月歩の進化を遂げるデジタルメディアについても理解を深める。本授業で得た知識を、他の情報科目やゼミナール発表、また卒業後の仕事において利用できるようになることを目標とする。			

ビジネス実務学科		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。		
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。		○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)	70	10		20	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容 1》	《経験年数 1》
	《内容 2》	《経験年数 2》
	《内容 3》	《経験年数 3》
	《内容 4》	《経験年数 4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
コミュニケーションとメディアについての学習に主体的に取り組もうとしている（関心・意欲・態度）	主体的な取り組みで授業時間を常に有効に使用している	主体的な取り組みで授業時間を有効に使用している	主体的な取り組みで授業時間を有効に使用している姿勢が見られる場面と見られない場面がある	主体的な取り組みで授業時間を有効に使用している姿がほとんど見られない
プレゼンテーションやグループディスカッションの際、メンバーの発表や意見のよい部分に対して指摘を行っている（思考・判断）	他メンバーの発表や意見のよい部分に対して、複数の具体例をあげて指摘している	他メンバーの発表や意見のよい部分に対して、一つの具体例をあげて指摘している	他メンバーの発表や意見のよい部分に対して指摘しているが、具体性に欠ける	他メンバーの発表や意見のよい部分に対して、指摘がほとんどない
デジタルメディアについての基礎知識（情報分野）に関する理解（知識）	デジタルメディアについての基礎知識（情報分野）に関して大変よく理解している	デジタルメディアについての基礎知識（情報分野）に関して概ね理解している	デジタルメディアについての基礎知識（情報分野）に関して、理解している部分とそうでない部分がある	デジタルメディアについての基礎知識（情報分野）に関してほとんど理解していない
デジタル機器についての基礎知識と利用状況にあった適切な機器の使用に関する理解（知識）	デジタル機器についての基礎知識と利用状況にあった適切な機器の使用に関して大変よく理解している	デジタル機器についての基礎知識と利用状況にあった適切な機器の使用に関して概ね理解している	デジタル機器についての基礎知識と利用状況に関して、理解している部分とそうでない部分がある	デジタル機器についての基礎知識と利用状況にあった適切な機器の使用に関してほとんど理解していない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 ガイダンス・メディアの歴史	本講義の受講目的について、またデジタルメディアに対する知識をまとめておく	40分
第2回 メディアとコミュニケーション（1）	メディアの歴史について復習しておく	30分
第3回 メディアとコミュニケーション（2）	トフラーの第四波について復習しておく	30分
第4回 アナログメディアとデジタルメディア（1）	アナログとデジタルの違いについて復習しておく	30分
第5回 アナログメディアとデジタルメディア（2）	アナログとデジタルメディアのメリット・デメリットについて復習しておく	30分
第6回 様々なデジタルメディア（1）	デジタルメディアの発達の歴史について復習しておく	30分
第7回 様々なデジタルメディア（2）	新しいデジタルメディアについてそのメリット、デメリットについて復習しておく	30分
第8回 ネットワークとコミュニケーション	ネットワークを介したコミュニケーションについて復習しておく	30分
第9回 効果的なデザイン（1）資料	視覚資料のデザイン理論について復習しておく	30分
第10回 効果的なデザイン（2）プレゼンテーション	効果的なプレゼンテーション方法についてまとめておく	30分
第11回 効果的なデザイン（3）映像	動画における視線誘導について復習しておく	30分
第12回 DTP ,DTM ,DTVの制作工程	デジタル出版物（静止画、動画、音楽）の制作手順について復習しておく	30分
第13回 グループワーク（1）制作企画・絵コンテ・撮影	制作物に必要な素材を準備する	30分
第14回 グループワーク（2）編集・出力	制作物を完成させる	30分
第15回 グループワーク（3）発表・評価 とまとめ	他グループの制作物に関して評価する	30分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、復習課題および制作したコンテンツをサーバーやPCにファイル保存してもらうことになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、70%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。		
小テスト10%, グループワーク20%		
課題に対してのフィードバック		
テスト・レポートを採点し返却する。 質問カードに対する答えを次週に授業内で答える。		
教科書・参考書		
プリント配付(Pdf配布)		